

プ ロ ロ ー グ

なんだか知らないけれど、隣の席の先輩の機嫌がいつもより悪い。

まあ機嫌が良い時があるのか謎な人だけど、いつもの3倍位機嫌が悪い。
その向かいの新人社員は固まったまま動かない。

仕事が遅くて有名な子だけど、動かなくなっちゃったよ、ついに。

2人とも目が死んでるし。

「さわらぬ神に祟りなし」だ。

僕は音を立てないようにスーッと席を離れる。が、ジロリと睨まれた。

ホント怖いよな、ちよつとはチーフを見習ってほしいよ。

隣の席のタカギが妙な動きで席を立つ。

明らかに私にビビっている。

自分では怒らせないようにしているつもりかもしれないけど、そういう態度が余計に

イライラす・ん・の・よ!!!

キーボードのエンターキーをパンつと叩く。

後ろを通ったマネージャーがビクつとなつて早足で逃げる。つていつても、かなりデブだから走れないし。

好きでイライラしてんじゃないわよ。生理前だから仕方ないでしょつ。

お前もなつてみるや。

向かいの席では新人のユリがパソコンを前に固まっている。

青白い顔で1点を見つめたままだ。

ただでさえ仕事が遅いのに、生理中はほとんど使い物にならない。

あーあ、またユリの尻拭い残業か。やたら眠いし、今日は早く帰りたいなあー。

無意識に大きなため息が出る。

ユリがビクツとなつて、キーボードを叩き始める。

あーー、ホントイヤ。わざとらしい女。

勢いよく立ち上がつてトイレに向かった。

思いのほか大きい音が出たらしく、ユリがビクツとなつて泣く寸前だ。

知るか、バカ。

背中から他の社員がユリを気遣う声が聞こえる。

こういう時だけいい人ぶつてさ。そんなにユリが可哀想なら、毎日ユリの尻拭いさせられてる私と代わってくれ。

「あー、まだ来ない。……つたく、なんで女ばつか……」

個室から出ると、洗面台のところでチーフがいた。

「キョウちゃん、生理？」

「あ、いえ。なかなか来なくて」

「そんでそんなにイライラしてんの？」

「え、あ。そんなに出してるつもりないんですけど」

「毛穴からにじみ出てるわよ」

チーフは困った顔で笑った。だって、しょうがないじゃん。分かってもイライラするんだもん。そんなの私だけじゃないし。そういえばチーフってあんまり機嫌の上下が無いよな。

たまに疲れてる時はあるけど、他の女性上司達に比べると妙に落ち着いてるよな。

「自分がしんどくない？　そういうの」

「しんどいですけど、しょうがなくくないですか？　生理になれば薬飲みますけど」

「うん。あのさ、今日一緒にランチ行こう」

「え？　あ、いいですけど」

と言ったものの、チーフとランチなんて緊張するし、ランチ行ってる場合じゃないんだけどな。

あー残業がまた長くなる。

「新人ユリちゃんも誘ってね」

えー、なんでー？

席に戻ってユリに声をかける。

「なんか、チーフがランチ一緒に行こうって」

「え、あ、はい。……先輩ですか？」

おどおどと聞いてくるユリに感情が爆発しそうだ。

「あのさ、私と一緒にだとイヤなの分かるけど、私もチーフから言われただけだから」

「あ、そういう事じゃないんです……」

ユリの目が涙でウルウルしている。

ほんとにイヤだ。

周りの視線が痛い。

私だって、こんな事言いたくない。

けど、生理前は自分でも感情のコントロールが出来ない。

そんな時に余計な事言うユリだって悪いじゃん。

いつも私にいじめられてるみたいな顔してさ。

自分の席についても仕事に集中出来ない。

イライラが止まらない。

もういやだ。

自分がいやだ。